キアミ訪問記

— 九島真紀子（神奈川県） —

HANDS会員の皆様はじめまして。

今年6月にハイスクール支援会員になった九島真紀子といいます。

会員になったばかりですが、この8月、郵政省へ提出する書類の補完の為に現地へ行かれる山崎さんにお願いして、ビラーンの地を訪れることができました。

完成間近いキアミの校舎

父がマニラ在住なので、マニラ周辺は観光したことがあるのですが、ミンダナオ島は初めてでした。まず向かったキアミへは、炎天下のトラックの荷台に揺られ、川の中を走り、急斜面を上り4時間半。それでも、自分で歩いたり川を泳いで渡ったりせずにすみ、気候はおだやかで恵まれていたようです。

突然開けた土地に小学校の建物がポツンと2つ。そして100人の子供達と建設作業中の男性達でした。私達を歌で歓迎し、そのまま終業となった子供と一緒に村へ。ココングラスの家々はとてもかわいらしく、夕飯の前のおだやかな一時を家の前のベンチで過ごす男女と挨拶を交わします。が、「ここの人々は一日一食。何とか二食にしたい。」というブランド神父の言葉に愕然とします。この山奥では電気もガスも水道も現金収入の道もなく、大人達は昼の間、漫然と時を過ごしているように見えました。（農作業は早朝、太陽が昇る前に行われます）

何も知らずビデオカメラを廻し、山刀を腰にさした男性や腕に入れ墨をした女性、そして友達が写っているカメラの液晶画面を初めて見てはしゃぐ子供達を撮り、一人悦に入っていた自分が恥ずかしくなります。

キアミ以外にも、CMBのプライベートビーチのコテージで、ハイスクール奨学生達と過ごした日曜日のことやサムラング・アトゥモロックを訪れた時のこと、まだまだお伝えしたいのですが、私が最初にHANDSの皆さんにお会いした時に言われた言葉「とにかく行って見て」としか、言いようがありません。私のささやかな援助が、住民の自立と結束という実を結ぶ上で欠かせないCMBスタッフの無償奉仕の姿勢を目の当たりにして、私の中に感謝の念が沸き上がるのを感じた8日間でした。

'99国際協力フェスティバルに初参加

去る10月2日、3日の二日間、日比谷公園で開催された'99国際協力フェスティバルにHANDSも初めて参加しました。

当会は収入増加／フェアトレード部門で参加、ビラーン族およびほぼ同じ文化を持つチボリ族の伝統工芸品であるマニラ麻織物（ティナラク）や刺しゅう、ビーズ製品の販売をしました。また、民族衣装ファッションショーに衣装を提供し、両民族が大切に継承しようとしている文化の一端を来場者に見て、着て楽しんでいただきました。

当日は東京周辺在住の会員数名が手伝って下さったほか、森田奈美さんが、フェアートレード部門のNGOグループとの事前の打合せ2回を含めて準備段階から参加しました。販売収益のうち、3万円は女性自立基金に加え、残額17,965円は一般会計に繰り入れました。

なお、このフェスティバル案内については、奨学生プロフィールなどを送付する機会のあった一部会員（首都圏の方）をのぞいて、主催者発行のチラシ送付を省略させていただきました。どうぞご了承ください。次回は前もってご案内致します。（事務局）

3年続けて支えてくれた新潟・国際協力ふれあい基金に感謝

— 教師給与補填事業 —

どのコミュニティーも隔絶された山岳部にあり、ボランティア精神だけでは続かない分校教師の職。CBMの学校がなかったら学ぶ機会がなくなる子どもたちのために、公立学校の3分の1という低い給与を少しでも補填して、いい教師に長くとどまってほしい‥。

1997年度の初申請から数えて3年目にあたる本年も、新潟・国際協力ふれあい基金から、年間給与の10−15%程度に当たる助成の決定通知をいただきました。